

第8回鹿児島市地域力再生検討委員会 会議概要

日 時：平成21年2月6日（金）15：00～17：00

場 所：鹿児島市役所 東別館9階 特別中会議室

出席者：市民局長、市民部長、市民参画推進課長、地域振興係

鹿児島市地域力再生検討委員会委員 12人(河原委員・城本委員欠席)

1 開 会

2 協 議

「最終とりまとめ」について

3 その他

①「第8回地域力再生検討委員会会議概要」の取り扱いについて

②その他

4 閉 会

会 長

- ・これから第8回鹿児島市地域力再生検討委員会を始めさせていただく。
- ・本日は、河原委員、城本委員については所用のため欠席である。また、山下委員、岡本委員は、他の会議出席のため若干遅れるとの連絡がきている。
- ・事務局から、「資料1 第7回検討委員会会議概要」、「資料2 第7回検討委員会における意見等の集約一覧」、また、1週間ほど前になるが「資料3 地域力再生検討委員会最終報告書（案）」を送付させていただいたが、お持ちになられているか。

委 員

- ・はい。という声あり。

会 長

- ・「資料1 第7回検討委員会会議概要」については、修正等はないか。

委員

- ・はい。と言う声あり。

会長

- ・修正等なければ、この内容でホームページへ掲載していきたい。
- ・本日の協議は、「最終とりまとめ」についてである。今回で当検討委員会も最終回となることから委員の忌憚のないご意見を賜りたい。
- ・「資料3 最終報告書（案）」は、前回の会議で出された意見等を事務局で整理し、最終報告書（素案）という形で委員の皆様にお送りし、素案に対する意見等を再度、反映させたものである。
- ・最終のとりまとめということで、それぞれのお立場からご意見等を賜りたいが、そのような進め方でよろしいか。

委員

- ・はい。と言う声あり。

会長

- ・ご異議がないようなので、そのように進めさせていただく。
- ・最終とりまとめについては、まとめ方や内容についてこれまで修正を加えてきており、大きな異論はないと思う。特に大きな修正等なければ、最終的な方向性に向けて意見交換をさせていただきたいが、よろしいか。

委員

- ・はい。と言う声あり。

吉見委員

- ・参考資料として配布された埼玉県のマンション自治会の事例を見ると、マンションでの自治会活動は決して難しいということはない。また、高齢者だけのところや若い住人が多い自治会でもうまくやっている。
- ・我々の議論の中では否定的にとらえていたことが他都市では大変うまく機能している事例もあるということで、大変いい資料を提供していただいた。最終報告書の中に、これら他都市の事例についても何か盛り込んでいるのか。

会長

- ・事務局、これについて何かあるか。

事務局

- ・当検討委員会では、鹿児島市におけるコミュニティ組織の代表格である町内会について掘り下げて、具体的に検討いただいたところである。

吉見委員

- ・それぞれの地域により状況が違うので、地域の特性にあった活かし方でいいと思う。この資料では、会長の任期が1年でも十分うまく機能しているところがあり、組織運営のマネジメントについて、かなり研修しているようだ。

事務局

- ・当検討委員会では、あくまでも鹿児島市における町内会を核とした地域力再生という大きな命題でご議論いただいた。
- ・今回の資料は、他の都市の特殊な事例かもしれないが、再生検討委員会の三つの柱の中の地域主体性の強化と意識改革に関連する事例として、情報提供させていただいた。

吉見委員

- ・大変参考になる資料だ。

会 長

- ・その他、何かないか。山下委員。

山下委員

- ・市職員は5000人ぐらいいると思うが、この人たちが活躍するいろいろな場があるのに、仕事が忙しいのか町内会活動や市主催の行事にもあまり出て来ないので、積極的に活動に参加させる方法はないものか。

会 長

- ・市職員の地域活動への積極参加について、どう具体化していくかが大きな課題で、職員も地域に帰れば一住民であるということを理解いただきたい。
- ・現在、市職員は何人いるのか。

事務局

- ・昨年10月1日時点で市長事務局、企業の病院、交通、水道など全部で4964人を対象に調査を行った結果、町内会への加入率は81.4%で、昨年4月1日現在の市全体の町内会加入率61.5%と比較すると2割ほど高い。

- ・18年度の職員の町内会加入率が約70%であったことから、18年度中に職員向けのリーフレット「コミュニティ活動のススメ」を作成し啓発活動を行った効果等もあり、現在の状況になっている。
- ・市職員も地域に帰れば一住民であり、本市が進める市民との協働という観点から、コミュニティ活動の旗振り役としてもっと町内会への加入率を増やしていこうと考えている。
- ・市職員が町内会長を引き受けることはなかなか難しいが、総務部長や班長等を受けている職員は結構おり、当課が所管している補助事業の申請に町内会の役員という立場で来課する事例は増えつつある。今後、さらに職員への啓発に努めたい。

山下委員

- ・市職員も有給休暇を使い切っていないと思うので、地域のボランティア活動に有給休暇を積極的に使えるように活用できないのか。
- ・地域のために頑張ろうという職員の方が行政にとっても有効かもしれないので、仕事に多少余裕があるような、働きやすい環境を作ることも必要だ。

井前委員

- ・安心安全課の災害要支援員の登録では、支援員が決まらず市の職員に呼びかけ約40人が受けてくれたと聞いた。市職員に募集されたことを高く評価したい。

会 長

- ・ありがとうございました。その他ないか。

永山委員

- ・これから地域がどうあるべきなのか、どうありたいのか、また科学の発達で人の行動がどう変わるのかなど、町内会や住民が認識を持つような場が地域に必要ではないか。
- ・地域には色々なネットワークがあるので、そういう中でも地域はどうあるべきか、どう発展していくのかなど、話し合える場もあったらいいと思う。

会 長

- ・事務局、どうぞ。

事務局

- ・30ページ「V 終わりに」の中で、地域には校区運営審議会や校区社会福祉協議会などコミュニティ団体もあり、「今後これらの団体も視野に入れた大きな枠組みでの将来に向けたコミュニティのあるべき姿を検討することも大切なことであることを最後に付け

加えて」となっており、永山委員が言われたことがここに込められているのではないかと思う。

会 長

- ・ 今回の地域力再生検討委員会は、最初、どういうテーマを扱うかということから町内会に絞り込むまで、何度もフィードバックし共通認識を持つことができ、よかったと思う。
- ・ 今後、この地域力再生検討委員会での基礎的なものを継承発展するため、次のプロジェクトに結びつけていくということが非常に大事ではないか。
- ・ これから10年は社会経済環境が大きく変わり少子高齢化がもっと進む中で、団塊の世代の活躍の場をどういうふうに地域に結びつけていくかという大きな課題がある。
- ・ 市民の意識が成熟化し女性の社会参加が多くなる中で、社会的な活動も含めて地域との連携のあり方が問われることになる。

西村委員

- ・ 2年ほど皆さんと接し、本当に多くのことを学ばせていただいた。
- ・ 28ページ「意識改革を進めるための具体的方策」の3番目「地域でできることは地域で、できないことは行政が担う」といった補完性の原理を基本とし、行政依存から地域主体へと意識を切り替えることが大切である」という、このことが正に地域の活性化であろうと思う。
- ・ 皆さんもいろんなところで「鹿児島市がどうして地域、学校、住民との連携がうまくいっているのか」と聞かれると思うが、鹿児島市は先を見て、将来こうなるだろうということを考えながらやっており、「V 終わりに」に書いてある通りだと思う。

会 長

- ・ 田上委員、どうぞ。

田上委員

- ・ 25ページまではデータに基づいたまとめだが、26ページ以降の今後はどう活かすかという点が非常に参考になり、エキスのものが箇条書きにまとめられ非常に分かりやすく役立つ資料となった。
- ・ 1ページの「地域力とは」という括弧のところで、地域力とは総合力だと思うが、地域が持つ総合力を具体的にどうしていけば、お互いに身になり発展していくか、今後、この地域力という言葉それぞれの立場で考えていくべきではないか。

会 長

- ・地域力という言葉は、この委員会が始まる以前は、委員それぞれイメージが違っていたと思うが、委員会が始まってからは地域力の基本的な考え方をどこにすり合わせいくかということが第1回目の検討委員会で問われたと思う。
- ・地域力という括弧枠の部分をもう少し膨らました方がいいのか、このままでいいのか、あるいは、解釈をするツールとして、こういうことを基本にしているということだけでいいのか。
- ・地域力とは括弧枠にあるように、こういうことを含めて活性化させていくという狙いを持っているということで書かれていると私は解釈している。

岡本委員

- ・町内会に集会所や公民館など集会する場所があるところは割とうまくいくし、コミュニケーションも取れる。最終報告書にもあるように、行政が土地を提供できる地域はいいが、ないところをどうするのかというのが課題だ。
- ・集会する場所は都市化が進むとなおさらなく、校区公民館や福祉館があると言っても距離が遠いところもあり、なかなかうまくいかない。
- ・一番大事なのはコミュニケーションであり、人ごとみたいに順番が来たから役員を仕方なくするというのではなく、「できる範囲でしてください」というような、お互い意見交換をしながらしていくと比較的うまくいくと思う。
- ・役員を長年しているところや1年交代のところなどそれぞれあるが、自分たちの町内会をどうしていくかお互いの意思疎通がないとうまくいかない。
- ・防災だ、人助けだと言いながら、災害が起こった時に一番近いのは隣近所である。隣人とのコミュニケーションがとれないような環境ではいけない。防犯についても、青パトが走っているから安全というものではなく、住民が本当に環境を認識しないと犯罪は減らない。
- ・町内会の合併とか分割とかあるが、財産を持っていると均等に財産を取れるかというのがあり、なかなか現実には難しい。
- ・鹿児島市全体の町内会の連合体については、最終報告書にもあるように本当に必要なかという疑問があり、校区単位での地域づくりというのであれば、校区で行事をする時に、校区内の複数の町内会が連携して行うのも一つの方法だと思う。

会 長

- ・地域をどう改善できるかというのは、日々の取り組みの中からは生まれ来ないこれまでの会議の中で十分感じた。
- ・地域のマネージメントは人がする仕事だから、そこにどういう人が係わるかが非常に大

事なことで、数の問題ではなく係わる人の情熱や資質、能力とかというものの総合的な力が発揮できるような地域社会環境にしていくのは、日々の取り組みからしか生まれて来ない。

- ・高齢化により避けて通れないのが後継者の問題である。役員がいきなり入れ替わるのではなく、入れ替わる時期に少し新旧役員同士の係わりがあるような引継ぎの工夫が必要ではないか。
- ・コミュニティづくりのための場所は非常に大事だが、ただ会場があればいいというものではなく、利便性など人が集まりやすいコミュニティ機能を持っているということが非常に大事なことである。
- ・町内会の集会所の「ある」「なし」ではなく、どのような状態にあるのか基礎的なデータも把握しておく必要があると思うが、事務局は把握しているか。

事務局

- ・町内会の集会所については、毎年1回提出いただく現況報告書で情報を把握しているが、細かな報告ではないため、もう少し掘り下げて現状把握をする必要もあると思う。

永山委員

- ・私の地域でも最近集会所を建替えたが、駐車場がないので2階建てにしようということになり、エレベーターをつけるかつけないかでもめた。最終的に役員が資料を運ぶのが大変だからエレベーターをつけることになったが、やはり仕事をする人がしやすいように建物もある程度造っていくべきではないか。
- ・高齢者や夜集まる会合には車が必要だという文化になってきており、車を排除してはなかなか人が集まらない状況になっている。例えば、住宅密集地などではどこか近くに駐車場スペースがもらえるような、そういう行政からの手立てみたいなのもあっていいのではないか。
- ・行政は、町内会のエリアをどの程度把握しているのか。校区単位とか町内会内の人口を把握してもらえると、今後いろんなことで頼りになり、町内会でやらないといけないことにも使えると思う。

会長

- ・事務局、どうぞ。

事務局

- ・それぞれの町内会の区域については、過去から町内会長に聞いているものを地図に落とし込み一応の把握は行っている。しかしながら、自分たちの町内会の区域がどこまでなの

か分からないという会長も多くなっているようである。基本的には、地元が分からないことを行政は知りようがないので、地元でしっかりと区域を把握され、できれば、その情報をいただきたい。

- ・町内会活動においては、区域内に世帯数がいくらあり、会員が何人ぐらいいるから加入率は何%だというような情報は、最も基本的なものであり、それぞれの町内会で是非持っていたきたい。多くの町内会でそのような情報把握はなされず、会費を納める世帯数だけ把握されているが、行政としては町丁別でしか世帯数を把握できない。
- ・町内会活動の基本となる区域、地域の状況を町内会が把握するような主体性をまず持っていたきたい。

永山委員

- ・どこかが首に鈴を付けてやらないことには、だんだん受け継いでいくと区域がどこからどこまで分からないということも出てくるので、行政で把握する必要があると思う。

安藤委員

- ・それは行政に頼る問題じゃない。口で言うのはたやすいが、地元が分かっていることを行政が把握できる訳がない。
- ・どこの町内会も区域を規約の中で定めているが、崩れているのは、例えば、息子が家を別の町内会に造った際に、もとの町内会に加入するというのが田舎は非常に多い。そこに勧誘に行くと、前の町内会に入っているということで、結局は町内会長同士で話し合わないといけないという難しい問題があるので行政では無理がある。
- ・最終報告書は、役員が運営に迷った時や考え方が合っているか見る手引書のように、市が出している「みんなの町内会」と「町内会実態調査」と三つあれば十分である。要は、これらを活用するリーダーがいるかどうかで地域活動は決まると言っても過言ではないと思う。

岡本委員

- ・町内会と言うが、個人情報の問題があり、何世帯あって何人いるかというのがなかなか把握できない。
- ・町内会は世帯主だけではなく住民ぐるみで、あいご会や高齢者なども把握しないと、なかなかうまくいかない。
- ・検討委員会ですべてを完成させた訳ではないので、スタートとして、こういう形で最終報告書がまとまったということはいいいことだ。

会 長

- ・まだ発言されていない方、どうぞ。

柳委員

- ・市のホームページに行政情報が掲載されているが、コミュニティ情報が集まったポータルサイトとか、興味を持っている人たちが行ける場所があるとすごく助かる。

会 長

- ・中村委員、どうぞ。

中村委員

- ・PTA 役員という立場で参加したが、子供たちは地域で育てたいといつも考えていた。地域のコミュニケーションとか、輪を作ることだけに頭がいっぱいであったが、この会に参加させていただき、幅広く町内会や自分の住んでいる地域を見ることができるようになった気がする。
- ・町内会はそれぞれ地域の特徴も悩みも全部違うので、どうやってとりまとめていけるのか難しいなあと思っていたが、方向性としてちゃんと打ち出すことができたことを、すばらしいと感じている。
- ・今は PTA 役員を離れているが、普通の地域住民に戻った時に、考えなければいけないことやいろんな問題点など情報が入ってくるかと考えた時に、なかなか入りにくい。
- ・私の友達関係では、自分の生活がいっぱいで周りを見る余裕もなく、次のリーダーを考えた時、今私が担っている役を次の人に譲れる人がいないのが現実であり、これからは意識改革がすごく課題になる。
- ・最終報告の方向性としてはすばらしいが、みんなに浸透させていくとなると何をしていけばいいのかと思う。

会 長

- ・それでは、田原委員どうぞ。

田原委員

- ・最終報告書は、委員会で出された様々な意見を、満遍なく集約できたのではないかと思う。特に、「Ⅲ 地域力再生のために」、「Ⅳ 今後に向けて」、「Ⅴ 終わりに」では、委員の皆さんが伝えたかったことがよくまとめられたと思う。
- ・検討委員会が始まったころは、リーダーは仕事をリタイアした元気でノウハウや人脈のある方々でなければもたないと思っていたが、始まったころとは経済状況は一変してお

り、リストラで仕事がなくなり、また、勤めていても仕事が減るという時代においては、仕事ばかりではなくて、時代は厳しいけれども価値観を変化させ、地域のために時間をさいて活動することもいいのではないか。

- ・町内会も組織である以上、マネジメント能力は非常に大事だが、そういうのに長けた人材はなかなかいないので、一人のリーダーが完結するというのではなく、チームで補完し合うというやり方が町内会の役員にはなりやすいと思う。

会 長

- ・一通りよろしいか。山下委員、どうぞ。

山下委員

- ・鹿児島市はいろんすばらしい制度があるが、行政が縦割りで横に知らないと活用できないこともあると思うので、地域のリーダーはそういう情報力を持った人でなければ難しいと思う。リーダーを育成するための研修会が必要だ。
- ・他都市の事例で、「赤ちゃんレター」というのをやっている地域があり、赤ちゃんの誕生祝いに行くことで、家族構成の情報が得られ、また問題点なども話してくれるので、色々な情報が把握できるということであった。住民全体の情報共有もできるという点では面白いものであり、鹿児島市でもできないかなあと感じた。

会 長

- ・井前委員、どうぞ。

井前委員

- ・私は、町内会組織が8世帯とか10世帯という小さな町内会があったり、町内会の端から端まで3キロ以上もあり、街灯も無いというような地域から参加させていただいたが、この委員会では話のレベルがかなり違うと感じた。
- ・昔、私の地域では、家族で他人の家の風呂に入りに行ったり、子供たちだけで泊まったり、ご飯を食べさせてもらったりとかという中で育ってきたが、そういうのを大切にしないといけないと思いながら、女性の社会進出とか情報化の中では変わって行かなければならない面もたくさんあると感じた。

会 長

- ・ありがとうございました。吉見委員。

吉見委員

- ・立派な報告書はできたが、実行しないと意味がない。

会 長

- ・26ページ以降はもう少し活かしようがあるのではないかとということで、ミニパンフやリーフレットを作成するなど工夫することも、今度の成果につながっていくのではないかと。
- ・検討委員会の中では委員同士で共通認識を持ったけれども、市民も我々と同じような情報を欲しがっていると思うので、理解させるための活字情報の提供も大切なことではないかと。委員会の意見として、ぜひご検討いただきたい。
- ・町内会は組織であり、マネージメントのない組織はあり得ない。そういう意味では、町内会役員の研修会はもちろん、もう少し拡大したような研修会の開き方の工夫は何か企画ができないものか。
- ・市職員のボランティアへの参加や安心安全のまちづくりの面から、地域生活者の視点からの職員の取り込みも町内会の活性化策の中で話題になったこと自体が大変な成果だと思うので、意識改革は行政も市民も一緒だということで続けてもらいたい。
- ・集会所の問題は、何か形が見えるようなものがあると活動の励みになるので、是非何か情報をお出しいただきたい。
- ・全体的に最終報告書の中で形式的なものなど何かないか。文言については意見をいただいたが、ご意見はないか。

委 員

- ・特にない。と言う声あり。

会 長

- ・それでは、意見交換を終了させていただく。
- ・次の「その他」、第8回検討委員会会議概要の取り扱いについてである。これまで、検討委員会の会議概要については、次回の検討委員会において委員に確認をいただいた上で、市ホームページ等で公表してきたが、今回で当委員会は最終回となることから、会議概要を事務局で整理し、各委員に送付させていただき、各委員確認後、公表したいがよろしいか。

委 員

- ・異議なし。と言う声あり。

会 長

- ・ご異議がないようなので、そのように取り扱うこととさせていただきます。
- ・その他、今後の日程等について、事務局どうぞ。

事務局

- ・最終とりまとめにあたり、たくさんのご意見をいただいた。
- ・最終報告書は、3月末を目処に市長に報告していただきたい。

会 長

- ・最終報告書の市長への報告は、3月末を目処に当委員会を代表して報告させていただきたいが、そういう方向でよろしいか。

委 員

- ・異議なし。と言う声あり。

会 長

- ・ご異議がないようなので、そのように取り扱うこととさせていただきます。
- ・その他、ご意見はないか。

田原委員

- ・毎回、きちっと会議概要を作り、様々な資料を作成していただいた事務局には大変ご苦労をおかけした。
- ・会長におかれては、様々な意見を絶え間なく交通整理をされ、うまく意見をまとめていただき謝意を申し上げます。

会 長

- ・時間が経過してきたが、ご意見がなければ、本日の委員会でとりまとめたものを市長報告という形にさせていただきたい。
- ・各委員から大変熱心にそれぞれの角度や自分自身の町内会、広くは鹿児島市のことを考えて、建設的なご意見をいただいたおかげで、こういう形でとりまとめができた。
- ・委員の皆様や事務局それぞれの努力で、本日こういう形でまとめられたことに大変感謝を申し上げお礼に代えさせていただきます。

事務局

- ・それでは当検討委員会の最終回に当り、市民局長の木佐貫から委員の皆様にお礼のごあ

いさつをさせていただく。

市民局長

- ・石田尾会長並びに委員の皆様、平成 19 年から今日までご論議いただき誠にありがとうございました。
- ・地域力の再生に向け、大きな 6 つのテーマごとに 444 項目のご意見をいただいた。
- ・今後、町内会長が一堂に会する場などにおいて町内会に情報提供をしてまいりたい。
- ・行政としても、出された意見の中ですぐに取り組めるものは来年度予算に向け、また、中長期的に取り組まなければならない意見等もあり、地域の様々な課題、多様化するニーズがある中で、今後、行政と市民との役割をお互いに尊重しながら、共に考え、共に汗を流して地域の知恵と力を結集し、そういう仕組みづくりが大事だと感じている。
- ・今後も、地域コミュニティ施策はもとより市政全般にわたり、各面からご支援ご協力を賜りたい。

事務局

- ・以上をもって、鹿児島市地域力再生検討委員会のすべてを終了する。
- ・皆様、ご苦労さまでした。本日は、ありがとうございました。